

平成29年10月31日

福生市議会議長 杉山行男 様

市民厚生委員会委員長 堀 雄一郎

平成29年度 福生市議会市民厚生委員会視察報告書

本委員会は、平成29年度行政視察を次のとおり実施しましたので、報告いたします。

1 視察日程

平成29年10月2日(月)～3日(火)

2 視察先及び目的

(1)富山県南砺市

特定健診・保健指導の実施状況について

(2)石川県野々市市

地域包括支援センターの取組みについて

3 視察参加者

委員長:堀 雄一郎

副委員長:幡垣 正生

委員:五十嵐 みさ

委員:奥富 喜一

委員:串田 金八

委員:杉山 行男

随 行 大内 博之 (議会事務局議事係)

1 市の概要(平成29年9月現在)

(1)面積 668.64km²

(2)人口 51,989人

(3)世帯数 17,823世帯

(4)概要 富山県の南西部に位置し、北部は砺波市と小矢部市、東部は富山市、西部は石川県金沢市と白山市、南部は山岳を経て岐阜県飛騨市や白川村と隣接しています。東西約26キロメートル、南北約39キロメートルで、そのうち約8割が白山国立公園等を含む森林であるほか、山々に源を発して庄川や小矢部川の急流河川が北流するなど、豊かな自然に恵まれています。また、市北部の平野部では、水田地帯の中に美しい「散居村」の風景が広がり、独特の集落景観を形成しています。気候は、典型的な日本海側気候で、冬は寒く、降水・降雪量が多い地域です。また、平野部では春先の強風や台風、冬の雪、夏の暑い日差しを遮るため、散居村特有の「カイニヨ」と呼ばれる屋敷林で家屋を守っています。

2つの公立病院と4つの診療所及び訪問看護ステーションが連携し、地域医療体制を組み、地域包括支援センターと連携し、医療と介護サービスを提供しています。

2 視察概要

<視察目的>

南砺市は、特定健診の対象者数9,184人に対する受診者5,796人、受診率63.1%、特定保健指導の対象者742人に対する終了者495人、終了率66.7%と、国の示す特定健診・保健指導参酌標準60%を見事達成している。

比較的人口の少ない町村を除き、全国市で比較すると、特定健診受診率で2位・保健指導終了率3位という目覚ましい成果を出している。その背景となる取り組み、各種施策を調査する。

<調査事項>

1・指定医療機関について

市内22医療機関(南砺市医師会と契約を結び実施)

個別健診実施期間:平成29年6月13日～平成29年9月30日

※早期受診、特定保健指導早期介入につなげるため、勸奨期間は平成29年7月31日迄

2・通院治療中の市民への対応

- ① 生活習慣病にて通院治療中でも、全ての健診項目を受けていない場合もあるため、特定健診を受診していただけるよう、封筒外及び封筒内の案内文書に「治療中の方も対象です」等の文章を記載し周知を図る。
- ② 特定健診実施前の各医療機関への説明の際に、医療機関からも治療中でも受診するように声かけしていただく説明を実施。

3・特定健診を受けられない方への対応

- ① 特定健診受診券の裏に、本人記載用の「健康診査等結果提供書」を印刷し、本人が記載し市へ提出しやすい書類を作成。
- ② 個別健診・集団健診終了後、各医療機関へ当年度の各医療機関特定健診受診者名簿の情報提供し、生活習慣病の定期通院者だが特定健診未受診者と思われる患者に、市へ健診結果提供の同意を得てもらった上でデータを提供いただく体制を新たに作り、今後実施予定。

4・特定健診受診勧奨について

- ① 6月上旬の受診券送付時、封筒に必要事項を全て記載し、封筒を開封しない方や案内チラシを読まない方にも周知できるよう工夫。
- ② 9月上旬(個別健診実施期間終了1か月前)に、8月中旬受診者のデータをもとに未受診者を抽出し、ハガキで最終期限の1か月前を周知。
- ③ 10月中旬に、9月末までの個別健診未受診者を抽出し、集団健診開催の案内。

5・南砺市人間ドック検診(市助成)について

委託医療機関:3か所

(南砺市民病院:165、公立南砺中央病院:65、厚生連高岡病院:740)

委託人数:970人 委託単価:各医療機関の見積もりによる

6・特定健診と同時に受けられる検診

大腸がん検診:40歳以上、料金400円

前立腺がん検診:50歳以上、料金500円

胃疾患リスク検診:40・45・50・55・60・65歳の節目年齢、料金1,000円

B型・C型肝炎ウイルス検診:40・50・60・65歳の節目年齢で未検査の方、無料

7・特定保健指導推進の取組みについて

① スケジュール

6月中旬特定健診開始のため、結果が出る7月下旬から初回面接を開始。

12月・2月に血液検査を開催し、中間・最終評価として実施。

② 南砺市の取組の特色

・特定保健指導の案内を健診結果到着から期間をあけずタイムリーに行う。

・小グループの集団教室を廃止し、各自の血液データを基に、その人に応じた指導を行うため全て個別指導で対応。また評価のための血液検査を実施し、積極的支援終了率の向上を図る。

・初回面接実施率70%以上を係の目標として取り組む。地区担当制を取り入れ、地

区ごとの進捗状況を課内で公表・情報共有することで、職員の保健指導実施への取組意欲向上を図る。



視察成果のまとめ

南砺市の「特定健康診査・特定保健指導」の実施には、様々な工夫が凝らされていました。とりわけ市民への周知がきめ細やかに実施されていることに起因していると言えます。まずは、特定健診受診券を送付する封筒の表裏には、必要な情報を記載して、封筒を開封しない人にも、各種検診についても周知しています。

特定健康診査のスケジュールの取り方は、6月中旬から9月末までの3カ月半を市内指定医療機関での個別健診の期間としつつ、7月末までを受診勧奨期間と定め、8月中には未受診者へ勧奨ハガキで最終期限9月末まで残り1か月というお知らせを行っていました。

10月には改めて残った未受診者のみ対象に、集団健診案内を送付し11月中の土・日で集団健診を行うなど、手厚い勧奨が行われていました。

また、通院治療中の方への対応として封筒に「治療中の方も対象です」と目につく様に記載。医療機関にも、患者への受診勧奨をお願いし、特定健診を受けられない方には、「受けられない理由」を電話やFAX等で返答を求め、通院中等の方は特定健診受診券の裏に「健康診査等結果提供書」を印刷し、本人から市への提出を促していました。

保健指導の実施率向上の工夫では、健診から期間をあけずに7月から通知し順次実施、実施後に血液検査を行い評価まですることで、成果を実感してもらい積極的支援終了率向上を図っています。受診が遅れた9月末時点で未受診であった集団健診対象者には、特定保健指導対象者の受診結果通知を送付するのではなく、初回面接時に渡すという方法を取っていました。その結果、保健指導の実施率66.7%という稀にみる成果が得られていました。

どうすれば、一人も漏れなく特定健診を受診し、保健指導の対象となった方には、その指導を実践してもらうのか、真剣に考えた末の取組に敬服致しました。

福生市でも実施時期や実施回数、運用方法などは見直しを行いながら、受けやすい体制づくりに努め、市民の福祉増進・医療給付費の抑制・介護予防等を進めたいと存じます。

封筒の表紙には、重要な情報が一目でわかるようにデザインされています。赤い「重要 即開封」のバナーが目立つように配置されています。中央には「平成29年度 特定健康診査 受診券 在中」という大きな文字が配置されています。下部には、受診期間（平成29年6月13日(火)～7月31日(月)）、実施場所（市内指定医療機関）、持ち物（国民健康保険受診券、特定健診受診券、質問票）などの詳細情報が記載されています。また、お問い合わせ先（南砺市健康課保健係）も記載されています。

封筒の裏面には、開封する前に宛名の確認をお願いします。という注意書きの下、1～4の検診が同時に受診できると案内されています。1. 大腸がん検診（対象：40歳以上、料金：400円）、2. 前立腺がん検診（対象：50歳以上男性、料金：500円）、3. 胃疾患リスク検診（対象：前自年齢40～65歳の方、料金：1,000円）、4. B型・C型肝炎ウイルス検診（対象：前自年齢40～65歳の方、料金：無料）の4つの検診項目が紹介されています。また、各検診の具体的な実施方法や注意事項も記載されています。

特定健康診査受診券 送付用の封筒

石川県野々市市 視察 【10月3日(火)】

1 市の概要(平成29年9月現在)

- (1)面積 13.56km²
- (2)人口 51,973人
- (3)世帯数 23,012世帯
- (4)概要 石川県のほぼ中央に位置し、東西4.5km南北6.7km、山・海のない全くの平坦地です。北東部を金沢市と、南西部を白山市にそれぞれ接しています。平成23年11月11日すべての法定要件を満たし市制を施行しています。2017年版全国「住みよさランキング」で、野々市市は、算出する指標のうち「利便度」がランキングの対象となった2012年から6年連続で1位となり、総合は5位と評価されています。「住みやすいまち」、「選ばれるまち」を市民の皆さんと創っていくことを目指しています。

2 視察概要

<視察目的>

野々市市は、高齢者が、住み慣れた地域で暮らすことができる社会の仕組みづくりを、市民によるワークショップを実施しながら『野々市市民の人生ガイド「ののいち日和」』としてまとめ、心身の衰えを予防・回復しようという取り組みを解りやすく、市民に提案するとともに周知している。介護予防や支えあいに関する取り組みを広範に行っていることから、その取り組みと各種施策を調査する。

<調査事項>

1・『ののいち日和』いつまでも普通に楽しい暮らし

① 野々市市民の人生ガイド「ののいち日和」作成までの経緯

平成27年度～平成29年度にかけて「野々市版地域包括ケアシステム基盤整備事業」を実施。

野々市版地域包括ケアシステム構築で大切にしていること

→本人・地域ともに「当事者意識」を持ってもらうことを大切にしている。

→地域にある課題を地域の人たち自身が発見し、それを自分たちの手で解決していきけるよう支援していく。

平成27年度の目標

- 1人1人の人生から地域包括ケアシステムを考える。
- 参加者が、自分の言葉で地域包括ケアシステムを語れる。

☆まなび(講義)

人生50年→人生90年 孤独のリスク

☆実践(ワークショップ)(社会実験)

90年の人生設計 1日の暮らし方 社会資源の調査

★『ののいち日和』の取材 人生ガイド作成



② 市施策との関係について

平成28年度の目標

- 高齢者になっても、いつまでも普通に楽しく暮らし続けられるために、あったらいいなと思うサービスや社会資源を形にしていく

☆運動 STAND UP301 30分以上座り続けないように心がける

☆食 コンビニ栄養学講座 コンビニと連携し低栄養予防に取り組む

☆住まい HAPPY SMILEサービス 町内会・不動産管理会社・入居高齢者・行政

☆仕事 たすけ愛(仮称) コミュニティカフェと連携し、困りごとを解決する仕組み

☆介護 ののいち介護ラボ 介護のイメージアップを図るためのイベント

☆医療 医療と介護は情報戦だ ポスター作成、対話型イベントの開催

2・地域支えあいマップづくり

① 地域診断および作成支援等について

住民同士のつながりや日頃の支え合いの関係を聴き取り、地図に記して

1 高齢者の生活課題を見つける

2 課題に対する解決策を検討、実行する

● 地域にある課題を地域の人たち自身が解決

防災訓練・買い物支援・ゴミ出し支援・ちょっとした困りごとなど・・

3・集う場の立ち上げ支援

① 地域サロン

介護予防 体操 月2回 体操の時間に合わせて集合 高齢者

立ち上げ支援 支援費2万円支給 地域包括支援センターによる1カ月間体操指導

継続支援 地域サロン交流会(年1回) 体力測定(年1回)

② コミュニティカフェ

介護予防 高齢者の生きがい 多世代交流 自由 好きな時間に来て帰る 全世代

立ち上げ支援 地域包括支援センターによる立ち上げ支援・開設支援講座(不定期)

継続支援 コミュニティカフェネットワークとの連携 ガイドブック スキルアップ研修会





視察成果のまとめ

野々市市では、野々市版地域包括ケアシステム基盤整備事業に取り組むにあたり、市民や関係者・関係機関などの当事者意識の醸成を基本において事業を推進しています。

その結果、自ずと地域コミュニティの活性化に力を入れていくことになっていました。その展開が、「人と人がつながる 地域の縁側 誰もが関わりあい、つながるための居場所づくり」となって「コミュニティカフェの開設支援」という形につらなっていました。コミュニティカフェは、地域の子供たちが宿題をしても、大人が絵画教室やパソコン教室をやっても良いですし、開設場所も大学生が作った空き家を改装したものから、イベントが無い平日の町会会館や郷土資料室の利用例など、様々な事例が紹介されています。また広報でもカフェ紹介が大々的にされていました。

コミュニティカフェですが、法的な定義は無く、誰もがいつでも気軽に来て、気軽に帰ることのできる居心地の良い空間の様なものです。運営に当たっては、資金・場所・営業に許可が必要なのか等、様々な疑問が生じることから、チョットした支援やアドバイスをしたところ、およそ20か所のカフェが誕生したとのこと。福生市内でも、そのような場所を自主的に設けられている方、あったらよいな、どうしたら開設できるかしら、と思われている方がおられます。ぜひ、立ち上げや開設の支援を行っていきたくと存じます。